

水野教育長記者会見 概要

日時：令和 7 年 12 月 22 日（月）16 時 00 分～16 時 40 分

場所：大阪府庁別館 6 階 委員会議室

教育委員会の取組みについて

【水野教育長より】

早いもので師走も半ばを過ぎ、今日は冬至ということで、本当に 1 年が早いなと感じています。記者の皆様もどうぞお体をご自愛の上、今年いっぱい走り切っていただければと思います。

○令和 10 年度から実施する新たな選抜制度について

令和 10 年度から実施する新たな公立高校入試につきましては、令和 7 年 3 月に選抜改善方針を定めて以降、詳細な制度設計を進めているところです。大阪府教育庁の公式 YouTube にも、解説動画を出しておりますので、ぜひそちらもご参照いただければと思います。

ご承知のとおり、新たな選抜制度は、府立高校改革の一環として、各高校の取組みや学科・コースなどの特色化をより一層進めるとともに、受験生の主体的な学校選択や充実した高校生活に繋がる選抜として実施をいたします。

新たな選抜制度のポイントは大きく 3 点、「入試期間の短縮」、「学校特色枠の導入」、「第 2 志望校への出願機会の創出」です。

このうちの「学校特色枠」についてお知らせいたします。

学校特色枠は、エンパワメントスクール、ステップスクールを除く一般選抜全日制の課程で実施しますが、11 月 28 日には一部の高校を除き、その内容を公表いたしました。

学校特色枠は合格者の決定の第 1 手順として、各高校が求める生徒像に合う生徒を合格とするものです。現在の入試は、合格者の大部分は学力検査と調査書で決まりますが、学校特色枠では、各学校が自校の特色や取組み、求める生徒像を踏まえて選抜方法を設定しますので、例えば、面接や実技検査を実施したり、調査書のみで判定をしたり、逆に調査書を一切使わないで判定したりと、様々なバリエーションがございます。

各学校がどのような選抜方法を設定しているのかについては、府のウェブページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

求める生徒像には、高校ががんばっていること、がんばりたいこと、大切にしたいことが書かれています。例えば、ボランティア活動に力を入れている高校はどこかというように調べると、自分がこれまで知らなかった高校に中学生が出会うきっかけにもなると思います。

必ずこの学校特色枠に応募しなければならないというわけではありませんが、中学生のみなさんには、自分に合ってる高校、自分に適している学校を自分自身で選んでほしいと思

いますし、特に学校特色枠に当てはまらざればひチャレンジしてほしいと思います。

○大阪府立寝屋川高等学校の校舎建て替えについて

府教育庁では、現在、大阪府立寝屋川高等学校の校舎建て替え計画の設計を鋭意進めているところです。今般は、新校舎の特徴やイメージパースについて、お知らせをさせていただきます。

なお、建て替え工事は、現在のグラウンドに新校舎を建設後、旧校舎を撤去する現地建て替えにより、令和9年度後半に着手を予定しております。

寝屋川高校の本校舎は昭和12年に建設され、88年の間、地域の皆様に愛されながら多くの卒業生を輩出してまいりました。寝屋川高校の良き伝統を引き継ぎつつ、これからの時代にふさわしい新たな学び舎をめざします。

新校舎では、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間を提供します。

内観のイメージは、あくまで設計中ですので今後、変更が生じるとは思いますが、具体的には、普通教室等の面積を従来約64㎡から約74㎡に拡大し、1人1台端末の環境等の新しい学習環境を見据えたゆとりのある教室といたします。

多様な学習活動へ柔軟に対応するための多目的室や交流コモンズを計画し、可動間仕切り等により、コモンズ等の共用空間と教室を連携利用できるよう計画をしております。

また、構内と屋外の有機的な連携ができるよう、特別教室等に隣接した開放的なテラスや庭を整備する予定です。

このような先進的な特徴だけでなく、地域に親しみのある寝屋川高校を感じられるよう、創立110年をこえる歴史と伝統ある校舎の記憶を継承する要素をデザインに取り入れます。現校舎を想起させる玄関のデザイン、女学校時代の正門を再生する予定です。また、ZEB化や木材利用など、脱炭素社会の実現にも貢献していきます。

この新しい寝屋川高校の校舎を通じて、「新しい時代の学びを実現する学校」、「安心して学べる学校」の形を示し、次の世代を担う生徒たちを育てていきます。

近隣の皆様、関係者の皆様におかれましては、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

○内装リニューアル事業について

多くの記者の皆様にも取り上げていただきましたが、改めて説明をいたします。

府立学校に通う児童・生徒の皆さんが少しでも快適に過ごすことができるように、校内で一番長い時間を過ごす普通教室や、その前の廊下の内装リニューアルを、令和6年度と7年度にモデル的に行ってきました。

昨年度は、三国丘高校と泉大津高校の2校、そして今年度は泉陽高校、堺西高校、門真なみはや高校の3校のリニューアルを行い、現在、花園高校、東住吉支援学校において、この

冬休みを中心にリニューアルを行う予定です。

リニューアルの内容は、天井や壁面、建具の塗装、床の研磨がけやシートの貼り付けなどとなります。

ご覧いただいているのは、今年度にモデル実施した泉陽高校のビフォーアフターの様子です。泉陽高校には記者の皆さんも見に来ていただきました。私も直接、見に行きまして、ずいぶんと明るくなるという印象でした。生徒たちの声も直接聞きましたが、大変、好評でした。

10月24日に吉村知事がこの泉陽高校の教室を視察され、生徒の皆さんが知事にリニューアルした教室の感想を伝える機会もございました。壁や床の色を各クラスの代表が集まって、生徒自ら考えたことを、笑顔で話してる姿がとても印象的でした。

ご紹介する動画では、知事が視察された泉陽高校を始め、堺西高校や門真なみはや高校など、今年度にモデル実施した様子を紹介していますので、ぜひご覧ください。

府教育庁では、令和8年度から12年度までの5年間で、築年数約30年から60年の高校98校、支援学校30校の合計128校を対象に、この内装リニューアル事業を展開していきます。なお、事業の詳細については、現在、精査中です。

今後、建て替えや大規模改修を行うとともに、新たに内装リニューアルを進めていくことで、府立学校の魅力向上を図ってまいります。

○「大阪教育ゆめ基金」について

大阪府では、大阪の子どもたちの「学び」と「はぐくみ」を支えるため、大阪教育ゆめ基金を設置しています。昨年度からは、従来大阪府教育庁への寄附に加え、公私を問わず、応援したい府内の高校等を指定して寄附することができるようになりました。

皆様からいただきましたご寄附は、スポーツ教室の開催や読書活動の推進など、子どもたちの成長に直結する事業の他、学校等を指定した寄附については、当該校において教育の充実等、学校が希望する事業に充てられています。

個人からのご寄附は「ふるさと納税」の対象となり、令和7年分としては12月31日までに入金された寄附が適用されます。年末に向けて、ふるさと納税をご検討されている方も多いと思いますが、大阪府にお住まいの方もご利用いただけます。

また、今年ご寄附いただいた方で、ワンストップ特例制度を利用される場合は、申請書を1月10日までに教育総務企画課へ、私立高校等を指定してご寄附いただいた方は1月7日までに私学課へお送りください。

寄附のお申し込みは、大阪府行政オンラインシステムのほか、さとふる、ふるさとチョイス、楽天ふるさと納税でも可能です。また、寄附金控除の対象にはなりませんが、府立の教育関連施設ではPayPayで寄附をすることができます。詳しくは基金のホームページをご覧ください。大阪府教育庁では当基金を多くの方に知っていただき、教育の充実を図ってまいりたいと考えております。

ふるさと納税等で、どこに寄附しようかとご検討されている皆様、ぜひ大阪教育ゆめ基金にお願いします。

○中学校夜間学級の生徒募集、夜間中学写真パネル展の実施について

夜間中学は、様々な事情で小中学校を卒業しておられない方や、不登校などの理由により、学齢期に十分な教育を受けられなかった方が対象で、様々な年齢や国籍の方が学んでいます。

現在、夜間中学では令和 8 年度の生徒を募集しています。学びたいと考えておられる方は、大阪市、堺市、豊中市、守口市、東大阪市、八尾市、岸和田市、泉佐野市の 8 市に 11 校ある近くの夜間中学か、お住いの市町村の教育委員会にご相談ください。募集期間は、令和 8 年の 4 月 30 日までです。

また、お知り合いの方など、身近な方で、夜間中学での学びを必要としている方がおられたら、ぜひ、夜間中学のことをご紹介いただきたくれますと幸いです。

続いて、夜間中学写真パネル展の実施についてです。先の大阪関西・万博では、夜間中学で、熱心に、生き生きと学ぶ方々の姿を写真パネルで紹介する展示会を行いました。万博に会場された多くの方々に夜間中学等の様子をお伝えすることができました。

この度、夜間中学についてより多くの方に知っていただけますよう、万博会場で展示したパネルを、大阪府立中央図書館でも展示することとしました。この、「夜間中学写真パネル展」は、令和 8 年 1 月 7 日（水）午後から 21 日（水）午前まで実施しますので、ぜひ多くの方にご来場いただけますと幸いです。

○子育て応援チャンネル「HUG 組（はぐくみ）」について

この度、地域教育振興課地域連携グループにおいて、YouTube チャンネル「子育て応援チャンネル『HUG』組-はぐくみ-」を開設いたしました。

先日、始動したばかりですので、配信している動画はまだ少ないですが、「未来に向かう力（非認知能力）」や「親学習」に関する動画等、ご家庭で保護者のみなさんがお子さんに對して行っている「家庭教育」のヒントになる情報を届けてまいります。

「子育て応援チャンネル 『HUG』組-はぐくみ-」を是非ご覧いただき、チャンネル登録していただきますよう、お願いいたします。

○令和 9 年度大阪府公立学校教員採用選考テストの日程及び主な変更点について

令和 8 年度に実施する令和 9 年度大阪府公立学校教員採用選考テストについて、第 1 次選考（筆答テスト）を令和 8 年 6 月 13 日（土）に実施します。

第 1 次選考合格者には、第 2 次選考で面接テストや教科専門の筆答テスト、実技テストを受験いただき、最終合格者を決定します。

選考テストの主な変更点としては、近年、志願者数が低迷しており、人材確保が難しい状

況となっている「特別支援学校自立活動（肢体不自由教育）」において、出願に必要な免許状要件を緩和し、特別免許状の取得を前提とした受験を可能とします。

具体的には、自立活動（肢体不自由教育）の教員免許状を有していない者であっても、法人格を有する福祉施設等において、理学療法士、作業療法士、又は言語聴覚士の正規職員として、令和8年3月31日までに3年以上障がい児に対する実務経験を有する者が対象となります。

第2次選考以降の日程や変更点の詳細については、2月下旬に受験案内にて公表する予定です。

○令和9年度大阪府公立学校教員募集ポスター投票について

教員募集ポスターのデザインは、多くの方々から大阪府の教員に興味・関心を持っていただけのポスターとなるよう、昨年度に続き、府民のみなさまからの投票によってポスターデザインを決定します。

3つの案の中から、一番得票数の多かったデザインを、令和9年度大阪府公立学校教員募集ポスターのデザインに決定します。

A案には、「子どもたちの未来を切り拓く力を育むとともに、自らの未来を切り拓こう」、B案には、「大阪で教員になる夢を叶えよう」、C案には、「私たちと一緒に働こう」というメッセージを込めています。

投票は、本日14時から開始しており、来年1月13日（火）の17時まで受け付けておりますので、ぜひ投票をお願いします。

○令和7年度特別展「資料でたどる大阪の医学と医療」の開催について

大阪府立中之島図書館では、来年1月19日から2月28日まで、令和7年度特別展「資料でたどる大阪の医学と医療」を開催します。

大阪の医学・医療の歴史は古く、近世より、明の医学を学び治療にも後進の育成にも励んだ医師・古林見宜(ふるばやしけんぎ)、種痘・コレラ治療など医学史上に大きな業績を生み出した適塾の緒方洪庵(おがたこうあん)、医療宣教師らの活躍もあり、実証と臨床を重んじ、新たな学説を取り入れつつ病と向き合いながら、現代まで先進的に取り組まれてきました。

本展示は、内閣官房の「昭和100年」関連施策として登録しており、昭和の時代を中心に、近世から現在までの資料約50点を紹介しつつ、未来につながる大阪の医学研究・医療の歴史をたどります。

適塾や未来医療国際拠点・中之島クロスの協力を得て、その取り組みもご紹介します。

なお、本展示に関連して、1月26日には関連講演会「大阪の医学の歴史と未来」、2月21日には関連講演会「緒方洪庵の感染症対策」を図書館内で開催予定です。

ご関心を持っていただけたら、詳しくは中之島図書館指定管理者のページをご覧ください。

○教育長による学校訪問について

この2学期も多くの学校を訪問いたしました。おそらく、3学期は入試等の関係もあり、私の学校訪問は行われなないかと思います。令和7年度は、77校とプラスアルファ訪問し、昨年度が70校プラスアルファでしたので、合計で大体150校ほどの府立学校を訪問しているという状況です。

質疑応答

○令和10年度から実施する新たな選抜制度について①

(日経新聞)

令和10年度から実施する新たな選抜制度について、お伺いします。公立高校入試において大きく3点の変更点がありますが、今回の変更を踏まえた狙いと期待を改めてお伺いできますでしょうか。

(水野教育長)

まずは、社会の価値観の変化や、生徒・保護者の学校教育に対するニーズが、やはり昭和の時代、平成の時代と比べて、ずいぶんと多様化し、大きく変化をしているところです。

教育の本質的なところになるのですが、今後、予測できない大きな変化をする時代の中で、子どもたちが将来にわたって豊かな人生を生き抜く力をつけさせていきたいという思いがあります。その一つのポイントとして、高校入試があります。

まずは、入試の日程を少し早くさせていただきました。大前提として、2月初旬にある私学の入試が仮に高校入試のスタート、入試の終わりが公立高校の合格発表だとすると、大阪府は、この入試期間が結構長い自治体でした。

他の都道府県の入試日程や発表はもう少し早いのですが、大阪は結構後ろに公立高校の合格発表があります。この入試期間をもう少し短縮することで、受験生の負担軽減にも繋がっていきたいですし、高校でミスマッチが起こらないように情報共有や引継ぎをする時間を3月にもう少し確保できるように、入試日程を少し早期化しました。具体的には、基準日を3月1日にしましたので、合格発表もおのずと2週間ほど早くなるかと思います。

2つめは、学校特色枠です。高校入試というと、やはり、国語・数学・理科・社会・外国語の5教科の試験の点数と内申点で決まっていくことが、今までの当たり前だったかと思っています。

しかし、皆さんも社会出られて感じたことはきっとあったと思いますが、ペーパーテストの点数と、社会に出てからの活躍ぶりは、そのまま比例するものではないかと思っています。

中学校段階で、自分の「好きなこと」を伸ばしていき、それが評価されるようにしていこうと思えば、そのような入試、選抜にしなければなりません。

ですので、学校特色枠をそれぞれの高校が決め、どういう生徒に来てほしいのか、そして

その来てほしい生徒をどのように測るのかというテストの在り方も含め、各校に委ねると定めたものが、この特色枠入試です。

最後の3つめです。公立高校を志望していても、もし不合格になれば、併願先の私立に行くというのが、これまでのほとんどのあり方でしたが、私立よりも公立に行きたいという生徒のために、現段階の制度案ですが、1回の公立入試で、志願者数が割れている公立高校を第2希望として出願をする機会を作ることが3点目の改革です。

(共同通信)

確認ですが、先ほどの3点め、第2志望校への出願機会とは、府立高校を2つ出願できるという意味合いで捉えてよろしいでしょうか。

(水野教育長)

はい、そうです。

○令和10年度から実施する新たな選抜制度について②

(共同通信)

教育庁では、府立高校改革アクションプランを設定されていますし、今回の入試改革も、その一連の流れなのかなと思います。私立との兼ね合いで考えると、やはり公立高校の魅力を高めて私立に対抗するということで、このような改革を打ち出されたのか、その経緯について、伺いしたいです。

(水野教育長)

大枠は、おっしゃるとおりです。私立と府立がお互いに切磋琢磨し、いいところを競い合うことで、総量として大阪府の私立・公立がともにクオリティを上げていけるような関係性をイメージしています。

公立高校の入試において、第2希望への出願機会を設けます。例えば、第1希望のA校を受験すると出願する際に、第2希望はB校としたときに、「A校は受からなかったけれども、B校に行くのであれば、自分は受かっている私立の併願校に行きたい。」という子の場合、それは私立がその子に対して刺さるメッセージを出したということになるでしょうね。

一方で、「A校は受からなかったけれども、私立の併願校ではなく、自分はB校に行きたい。」という子の場合、それは府立高校のメッセージがその子には刺さったということになるでしょう。

個々のケースはこれから積み重ねていきますが、そういった制度をしっかりと作っていくことで、私立の良さを府立はもっと学んでいく必要があるし、府立のスケールメリットを生かした教育展開や質は、私立も学ぶべきところはあるんじゃないかと思います。

○AIを活用した教員の働き方改革の可能性について

(共同通信)

12月19日(金曜日)に、大阪府庁でAIエージェントコンソーシアムの設立式がありましたが、その場で日本マイクロソフトの社長が教職員の業務軽減に対し言及されて、教職員個人に最適化されたAIを活用できる環境を整えるという発言がありました。

こちらに関して、教育庁で把握していらっしゃるのかということ、そして、今後どういった取組みをしていかれるのかを伺いたいです。

(水野教育長)

そういうことがあったことは、もちろん把握しておりますが、我々が一緒に取り組んできたという話ではありません。

ですが、めざすべきところはとても近いといえますか、AIエージェントが個人にある程度リンクしていきながら、今までならば自分でやっていたものをAIがある一定担ってくれたり、いろんなAIを駆使することで、自分の考えを壁打ちしたりするということを、今や社会人は経験されていると思います。

そのようなものが教育現場においても、まずは校務支援の文脈の中で、先生方がAIエージェントを当たり前のように使えるようになっていくということは、私としても歓迎するところです。

(共同通信)

その設立式場で、吉村知事もその関連の発言をされていました。教職員の業務が多く、全国の自治体や教職員が困っている中、この取組みがうまくいき、その効果的なものを出せば、取りまとめて全国にも波及させていくのではないかというご発言もされましたが、これに関して、どのように受け止められますか。

(水野教育長)

いいことだと思います。その改革が進み、大阪からそれが全国展開されていくこと、そして、それが良いものだとして日本全体のスタンダードになっていくことがあれば、公教育に携わる公務員としては、大変名誉なことですし、いいことだと思います。

○令和10年度から実施する新たな選抜制度について③

(読売新聞)

公立高校入試の特色枠についてです。もう中身は発表されていますが、水野教育長ご自身は各学校が考えた内容をどのように受け止められたのか、ご感想をお聞かせいただけないでしょうか。

(水野教育長)

こういう出し方はおそらく全国でも大阪だけだと思います。一律に大阪府教育委員会が学校に示すのではなく、一部を除いてですが全ての府立高校それぞれが、自校は何のために存在するのか、存在価値をまず考えた上で、どのような生徒に来てほしいのか、そして、その生徒をどのように測るのか、各校ごとに考えていただいたというこのプロセスに私は大きな教育改革の価値があると思います。

各校から出揃ったものを見まして、学校特色枠の上限値を 50%までと設定しました。私がすぐに確認したのが平均値なのですが、確か平均値が 23%でした。多くの学校がこの学校特色枠を使おうとする意志を出してくれたと受け止めております。

そして実際の選抜に関しては、失礼な言い方になるかもしれませんが、特定の科目に傾斜をつけるだけにとどまっている学校もありますし、自校の特色に対し、求める能力を測るために、エントリーシートにテーマを入れて書いていったうえに、学力検査でも傾斜をつけて測ろうとするなど、ずいぶんと工夫は見えたかなと思います。

ですが、これは令和 10 年からの開始ですので、まずは公表させていただき、今の中学一年生が受験するときに、この試験、学校の存在意義やスクールミッションなどを知っていただいた上で、どういう動向の変化が起こっていくのか、そして、本当に子どもたち 1 人 1 人の学びたい、探究したい、行きたいという思いが、どのような形で叶えられていくのか、常にイメージしながら進めていきたいと考えています。まず、偉大な一歩を踏み出したんじゃないかなとは思っています。

(読売新聞)

少し先のことですが、1 年生から準備しないといけない部分もあるとは思いますが、採用する高校側もこれから準備が必要だと思います。例えば、抽象的な内容も結構あると思いますし、実際に生徒が受けに来たときにどのように客観的に判断するのか、難しいところがあると思います。

そのあたり学校側に対し、これから準備としてどういうところに気をつけてほしいかであったり、期待したりすることはあるのでしょうか。

(水野教育長)

それも大変、大切な視点です。教育委員会としましても、各校長先生にこの件を相談しながら進めてきたところです。

そもそも高校入試とは、義務教育を終える子どもたちの多くが、初めて自身の自己実現をイメージし、そのために自己選択をするという機会になります。

新しい入試を受験することになるのは現在の中学校 1 年生からですので、中学 1 年生がそれらすべてを分析していくというのは、難しいと思っております。まずは、公立高校からのメッセージとしての「求める生徒像」の欄をしっかり読んでいただき、学校選びの参考に

してほしいです。その上で高校側も、準備をしっかりとしていかなければなりません。

高校入試自体は生徒を迎える最初の場面となりますので、この高校入試だけで学校の全てが決して変わるわけではないのですが、この制度をしっかりと生かしていきながら、「この高校に入りたい。」「入学してよかった。」などと生徒自身が実感できる学校作りのサポートを、高校の準備と合わせていきながら、教育委員会もしていきたいと思います。

○教員採用選考テスト（特別支援学校自立活動）における出願条件の緩和について

（朝日新聞）

教員採用選考テストにおいて、特別支援学校の出願の要件を緩和したというのは、大阪独自でしょうか、それとも全国的に文部科学省からの何か方針があって、進める内容なのかでしょうか。

（水野教育長）

他の自治体に関しては把握できていませんが、決して一律で緩和をするのではなく、大阪ではまず来年度、こういう形で緩和していこうというものです。

ちなみに昨年度は中学校の技術の志願者も非常に少なく、今回のような形で特別免許状を出すという制度を実施しております。各都道府県での工夫と認識していただければ結構です。

○教員採用における辞退者増加の状況について

（朝日新聞）

教員の採用に関しては、昨今辞退者が多いという問題を聞きますが、大阪府ではいかがでしょうか。

（水野教育長）

合格した方の 60%ほどの方が辞退をされたとメディアで拝見して、私も衝撃を受けました。大阪府に関しては、大体毎年の辞退者は 5%程度で、4～7%ぐらいの間を推移しています。

大阪府の辞退者が少ない理由ですが、大阪府では、大阪市教育委員会、堺市教育委員会、大阪府教育委員会、そして、豊能町など北部の方も独自の採用をしております。そして、近畿の各都道府県の教育委員会でも試験日を一定同じ日程で進めています。そのため、そもそも受けるという段階で、大阪府を受けたいと思いながら受けている方が多く、ゆえに合格をして辞退する方も少ない。

おそらくメディアで報じられた自治体などは早く欲しいからとだいぶ前倒しをされて、採用選考を実施している自治体なので、仮に合格をしても、例えば、その後大阪を受けて、大阪がいいなと思えば、結局は辞退に繋がってしまう。

日程の前倒しが効果的かどうかという議論をしていく上で、私もその数値に結構注目していましたので、前倒しをしたからいいというものでもないんだと感じたところです。